

昨年の七月十八日「大館能代空港」が開港した。北秋田の新たな高速交通機関として大いに期待されている。しかし、冬場の利用率や東京便が一本のみという不便さなど、問題もある。

今までの取り組み

「大館能代空港利用促進協議会」(以下協議会)の若狭さんと松田さんに話をうかがった。

協議会の目的は「需要を喚起すること」。それはビジネスでも観光でもどちらでも、より多く利用してもらおうとするものである。具体的には、キャラバンを組んで首都圏でのPR、パンフレット等の配布。また一月十日には、おも



市民リポーターだより No.7

大館能代空港への期待

リポーター 小笠原 求さん (長木川南)

に大阪便の利用促進のため関西圏との交流をテーマに「あきた北空港利活用フォーラム」を行う予定。さらに、地方空港十三拠点を結び、イベント情報の交換など、連携交流事業を計画中である。

また、「あきた北空港圏域観光キャンペーン実行委員会」の越前さんにも聞いた。協議会と重複す

ることもあるが、こちらでは各種PR、マスコミ・旅行会社への対応、それと交通アクセスの整備、接客サービスの向上等、受け入れ対策事業など、おもに観光の部分を受け持っている。

冬季の利用率向上の鍵は？

昨年十一月の東京便の利用率は、前月から千七百人減で六五・七パーセント。また、十二月一日から十日までの利用率は、東京便は四六・四パーセント、大阪便が一・四パーセント。十二月のトータルの利用率ではないが、やはり予想通り冬場の利用率の低さを表

している。では、どうすれば利用率を上げられるのか？

雪国の冬と言えばスキー。スキーで首都圏の人を呼べないか。森吉スキー場や阿仁スキー場が近くにある。しかし、都会の人を呼ぶには弱いと思う。スキー場として良い悪いというよりも、都会での知名度の問題が大きい。と言いつつ、森吉スキー場には、昨年の十二月の後半に大阪方面の大学スキー部の合宿が入っていたが、都会の人によく知られている東北のスキー場といえば「安比スキー場」。東京でも安比のステッカーを張った車をよく見かけるし、知名度はバツグン。



その安比へのアクセスは、新幹線が盛岡まで来ているものの、そこからローカル線かバスで行かなければならない。そのような不便さがありながら毎年多くの人が来ている。ならば飛行機を使つて大館能代空港まで来て、そこから専用バスで安比に行くようにしたら、移動の時間がかかり短縮され便利になるのではないか。こういったツアーを組んでもらえば、より多